

アマクロ少年やきゅうだん

奄美市立伊津部小学校

二年 山元 海ほ

あまみ大しまの山のおくの、そのまたずっとおくに、二ひきのアマミノクロウサギの兄弟がなかよくくらしていました。

毎日、兄弟でなかよくあなをほるれんしゅうをした。えさをさがすれんしゅうをしたりしていました。でも、その兄弟がなによりも大すきで、いっしょうけんめいれんしゅうしていたのは、やきゅうだったのです。

「きょうは、にいちやんがピッチャーをするからな。」
「うん、いいよ。じゃあ、ぼくがバッターになるね。」
二ひきは、毎日楽しくれんしゅうしていました。でも、この山には、やきゅうの大すきなどうぶつたちもほかにもいたのです。

グーンと体をのぼして、どんなボールもとれるハブ。左右へのごきかはやくて、しゅびのとくいなキノボリトカゲとケナガネズミ。こわいものしらずでかわいいプレイをするイシカワガエル。高いボールをキャッチできるルリカケス、アカシヨウビン、オオストンオ

オアカゲラ。みんな、アマクロ少年やきゅうだんのメンバーです。

きょうも、元気にれんしゅうするみんなのこえが聞こえてきます。

「さあ、こい。」

と、内やのしゅびはやる気まんまんです。外やも、

「いつでもうってこい。」

と、じしんまんまんです。クロウサギのおにいちやんがノックをして、楽しいれんしゅうがなん時間もつづきます。

そんな楽しい毎日の山の中に、ある日とつぜん、こまったことがおきてしまいました。となりの山のキノハズクやきゅうだんが、この山にすみかをつくろうとやってきたのです。そこで、みんなは、やきゅうのしあいをして考えることにしました。

「いよいよしあいかいしです。」

「よろしくおねがいします。」

と、どちらのチームもれいぎ正しく、それでいて気あいも十分です。あい手ピッチャーのコノハズクもクロウサギのおにいちやんも、しっかりなげてストライクがきまります。もし、うたれても、しゅびはかんぺきです。

「ナイスプレイ。」

みんなはこえをかけあったり、はく手をしたりして、
いっしょけんめいたたかいつづけました。だから、
点数は、れいたいれいのままです。どちらのチームも、
いいプレーがぞくしゅつです。それを見ていたアマク
ロやきゆうだんのみんなは、あい手チームのプレイに
もはく手をおくるようになりました。すると、

「クロウサ、この山にくるのをやめるよ。」
と、コノハズクが言い出しました。

「ぼくたちは、あい手にもはく手をするアマクロチー
ムに、かんどうしたんだ。」

それを聞いたアマクロのみんなは、

「それじゃあ、ときどき、やきゆうをしてあそぼうじ
ゃないか。」

と答えました。みんなは、いつでもなかよく楽しくあ
そんでいきます。

